



外国語教育の充実を図る!!!

西部教育局からの
お役立ち情報
(2020年2月号)

～小中連携を見据えて、小学校・中学校ともに大切にしたい指導のポイント vol.1～

文部科学省 山田誠志調査官招聘 米子市立伯仙小学校 公開授業・授業研究会(1/15)

《指導上の留意点》

- 帯活動で毎時間2文字程度ずつ扱い、丁寧に書くことを重視する
- 途中、児童に困ったことはなかったか、忘れてしまった言い方はなかったかを問う

1. Greeting
2. Jingle
3. Sound and letters
4. Small Talk
5. Let's Watch and Think
6. Game
7. Activity
8. Review
9. Greeting



今後の授業づくりで重視したいこと (参加者アンケートより)

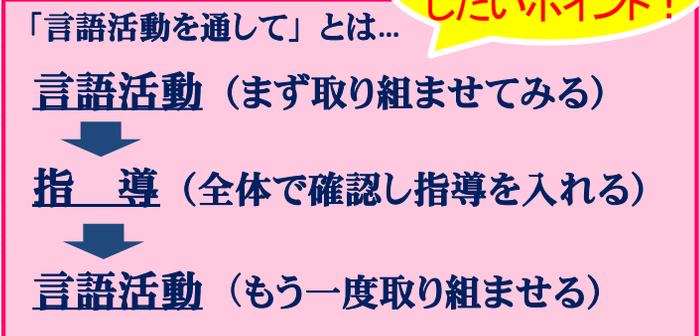
本時で子供に使ってほしい英語を教師がたくさん使い、子供とコミュニケーションすることを大切にしていきたいです。

思考・判断を伴った言語活動にするために、まず一旦やらせてみて、その後に指導を入れるということを実践したいと思います。

中学校でも重視したいポイント!

本時(単元)の... “ターゲットセンテンス”

本時のMain activity までに、Chantやゲーム等で、ターゲットセンテンスを子供が使う(聞く)場面にちりばめておく。
※単なるフレーズの繰り返し練習ではないことに注意!



【伯仙小公開授業における実践例】

本時のターゲットセンテンス “I want to go to ~.”
徐々に子供が発話するようスモールステップの活動を4(Small Talk)・5(LW&T)・6(Game)で設定
4・5...まずは教師が使って児童に聞かせ、教師とのやり取りに子供を巻き込む(十分なINPUT)
6...7(Activity)で自信をもって発話できるよう、一人一人が何度も発話できる方法を工夫する

子供に言えるようになってほしい英語表現は、「言語活動を通して」育成する。
※活動に取り組ませながら、必要な指導をする!

◆英語に不安がある先生は、「ターゲットセンテンスだけはたくさん使う」ことを意識しましょう!

◆子供に切実感を持たせるには、活動前に教師がフレーズを与えすぎたり、練習させすぎたりしないことがポイント!

これから、聞く活動を大切にしたいと思います。

「文字」から入る指導ではなく... (耳からの) INPUT → OUTPUT

小学校では、デジタル教材や映像なども活用し、音から入る指導を大切にする。

【参加者からの感想】

- ◆学級で外国語の授業を行う際には、できるだけコミュニケーションをたくさんとって、英語で話したいと思います。担任(授業者)の笑顔や、やり取りの大切さを感じました。
- ◆低学年担任で外国語活動の授業はないが、日々の言語活動や、コミュニケーションをより充実させていく必要性を感じました。
- ◆(調査官のお話を聞いて)外国語の授業に対する高いハードルを少し下げてくださいたい気がします。